

Top Message	環境・CSR本部長 メッセージ	特集1 中長期環境ビジョン	特集2 Digital Co-creation	第8期富士通グループ 環境行動計画	Chapter I 社会への貢献	Chapter II 自らの事業活動	環境マネジメント	データ編
事業所における温室効果ガス(GHG)排出量の削減・エネルギー消費原単位の改善	データセンターのPUE (電力使用効率)改善	再生可能エネルギーの 利用拡大	サプライチェーンにおける CO ₂ 排出量削減の推進	輸送における CO ₂ 排出量削減	水使用量の削減	化学物質排出量の 抑制	廃棄物発生量の 抑制	

水使用量の削減

富士通グループのアプローチ

気候変動や森林破壊、新興国・途上国の人口増加や経済成長などに伴い、世界的な水不足リスクが拡大しています。企業にとっても、水不足はビジネス継続に影響を及ぼしかねないリスクであり、水の使用量削減や再利用が重要な課題となっています。

富士通グループでは、とりわけ半導体やプリント基板の製造において水を大量に使用することから、特にそれらの水使用量の削減が必要と考えています。これまでも各工場において、節水はもとより純水リサイクルや雨水利用をはじめとする水の循環利用・再利用に継続的に取り組んできました。第8期環境行動計画では、水資源の有効利用に関する取り組みをこれまで以上に強化しています。

2016年度の実績サマリー

第8期環境 行動計画の 目標 (2018年度末まで)	水使用量を累計で 1% 削減する。 (12.8万m³)
2016年度 目標	水使用量 1万m³ 削減 0.1% 減 (2013年度比)
2016年度 実績	水使用量 13.9万m³ 削減 1.1% 減 (2013年度比)

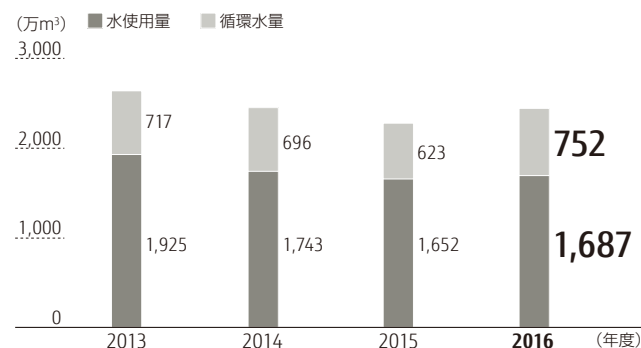
2016年度の実績・成果

水使用量は2013年度比13.9万m³削減

第8期環境行動計画の目標である水使用量の削減は、13.9万m³であり、2016年度目標の1万m³削減を大幅に上回りました。

2016年度の水使用量は1,687万m³(売上高当たりの原単位:374.1m³/億円)となり、増産などの影響もあり2015年比では2.1%増加となりましたが、各事業所や工場で様々な水資源の有効利用の取り組みを実施した結果、水使用量に対する循環水量の割合は44.6%と、2015年度と比べて6.9%増になりました。

水使用量および循環水量の推移



2016年度の主な活動報告

工場内廃水を回収水に転換利用

富士通コンポーネント株式会社では、タッチパネル製造ラインにおいて、スクライプ工程の洗浄廃水の再利用に取り組みました。これまで、洗浄用に使用した純水はすべて廃水になっていましたが、今回、富士通ファシリティーズ株式会社と協同し、洗浄廃水槽の定期的清掃、回収配管施工や純水品質の向上など様々な取り組みを実施しました。その結果、約18%を回収水として利用することに成功し、年間で12,000m³の水道使用量を削減することができました。



タッチパネルスクライプ工程における洗浄廃水の再利用による水使用削減活動
(富士通コンポーネント技術開発センター)